



●コンサートにありがとう

何年かぶりに団体でコンサートに行けることになり、楽しみにしていました。

すると今年は十日も早く桜が開花してくれたお陰さまで、まるでコンサートの日に合わせてくれたかのよう

に春爛漫となりました。庭先の桜、公園の桜、お陽さまでキラキラと輝ききれいな桜を見ながら、コンサート会場に向うことができました。

電車の車窓から見える桜と菜の花のコントラストがとても美しく、「わー、きれい。」と友達と叫んでしまいました。

到着すると会場の周りも桜、桜、桜！心がウキウキしながら会場に到着しました。

今回、大勢の方をお誘いした理由は、東北復興支援のチャリティーコンサートだったからです。入場料の全額が寄付されます。

少しでもお役に立ちたいと思いいチケットを購入



しました。ウインドオーケストラの演奏に森山良子さんの透明感のある歌声が会場中に響き渡り、そのスケールの大きさに驚いてしまいました。

大好きな曲「涙そうそう」も別世界にいるかのように聞こえ、一時無心になって聞き惚れてしまい、やはり生演奏は迫力があるなと圧倒されました。

明日のエネルギーになる、そんなありがたいコンサートでした。

素敵な歌声と演奏をありがとう。
(新宿区/K・R)

●ご先祖様にありがとう

今年も三月のお彼岸を迎えました。この時期になるといつも思い出すことがあります。

十六年前の三月二十日、この日は家族でお墓参りに行くことになり、会社から有給休暇を頂きました。

家族でお墓参りを終え、家でテレビをつける地下鉄サリン事件のことを報道していました。もし会社に行っていたら事件に巻き込まれていたかもしれない。そう思うとぞっとすると同時に、この時ほどご先祖様に守られていると思っただけではありません。

毎年、お彼岸の時期になると、いつもその事を思い出し、手を合わせています。

ご先祖様、ありがとう。
(横浜市/M・O)

●少年よ、揃えてくれてありがとう

今まで花粉症とは縁がなく、他人事だとはばかり思っていた。ところが古希も過ぎたことだし、ところが今年に入ってから、やけに目がかゆくなり、のべつ鼻水が出るようになった。今を盛りと咲き誇る、裏庭の沈丁花の香りも僅かにしか嗅げない。念の為に近くの耳鼻科へ行くことにした。



地元では、歴史のある小さな医院である。ドアを開けると、すぐ左手に受付があり、狭い待合室には年輩のご婦人が四人治療を待っていた。

受付で症状を伝え、手続きを終えて椅子に座り待っていると、診察室のドアが開き若い母親と、小学校低学年と思われる少年が治療を終えて出てきた。

そして、その母親が受付で対応している時だった。

なにげなく少年に目をやると、腰をかがめ入口に雑然と脱がれた、靴やサングラスをきちんと揃えていた。

その中には、乱雑に脱ぎ捨てられた私の靴もあった。しかも、ご丁寧に靴の向きを出口に向けてくれていた。

私はそれを見て、赤面するのを覚えるとともに、暗黙のうちに年端もいかぬ少年に己のだらしなさを指摘されたようで、恥し入るばかりだった。

そして、会計を終えた母親は、少年のその

●里山にありがとう

私が生まれ育った町は里山に囲まれています。

秋深く十一月になると里山の雑木は葉を落とします。葉を落とした木はまるですだれをかけた様に見えます。朝日はすだれの向こう側から昇ってきます。

四月の新緑の頃、雑木林のナラの木やクヌギの木は白く光るような芽吹きを見せてくれます。

五月には山ふじが花を咲かせ、山吹の花が黄色く輝き、山つつじの花も赤やピンクの花を咲かせます。五月は里山が華やかで賑やかな季節になります。里山のあちらこちらからウグイスが一日中鳴きくらべをしています。

五月の母の日には里山のある小さな町に行つてこようかと思つています。

美しい故郷の里山よ、ありがとう。
(さいたま市/K・N)

●ありがとう水郡線

茨城県の水戸駅と福島県の郡山駅を結んで走っているのが水郡線です。

未だにスイカなどのICカードは使えません。駅の大部分は無人駅です。



大きな音をたてて2両のディーゼルカーは走ります。通勤・通学の時間帯は1時間に2本くらい電車はありますが、その後は1時間に1本、2時間に1本とのん気な水郡線です。駆け足で駅に向かう人がいれば電車は待っています。日中乗っているのは病院に行く年寄りばかりです。左側には里山があり、里山は春に向って芽吹きを用意をしています。右側には久慈川の流れを見ながら、水群線はゆつくりのんびり走ります。新幹線の旅も良いし、車に乗って楽に行くのも良かったけど、大きな音を立てて走る水郡線の旅に癒されました。

(桶川市/K・M)

●頑張る力をありがとう

お彼岸の中日に「お花見がしたいね」と言っていた主人が他界してから二年が経ちました。

悲しくて毎日涙を流していましたが、東日本大震災で悲しく辛い思いを多くの人々が余儀なくされており、頑張る姿を見て、私も頑張ることができました。

墓所が近いので、毎日愛犬のジムと一緒に散歩しながらお墓参りをしています。主人が好きだったお花を欠かしたことはありません。

いつの間にか周りの人たちも、お花を欠かさずあげてくれるようになりました。ありがとう。

(大田区/A・N)

●五十円玉をありがとう

息子の結婚式に出席するために十年ぶりにパーマをかけました。

気分良く家に帰ると孫たちが「おかえり！」

と元氣よく出向かえてくれたのですが、私を見るなり、「ばあば、おかしいよ。絶対おかしいよ！」

と飛び出さんばかりのまんまるの目で言うのです。

そして、ポケットから五十円玉を取り出すと、

「これでおしてもらっておいで！」と私を氣遣ってくれました。

孫のやさしさに嬉しいやら悲しいやら…ありがとう。

(多摩市/E・T)

●義母のおはぎで

ありがとう

お彼岸が来ると義母はたくさんのおはぎを作って、ご近所に配っていました。

義母の作ったおはぎを思い出し、今年には私も一生懸命作り、職場の皆さんに召し上がっていただき、「最高においしい。」と褒めていただき、とても嬉しく喜びを味わいました。

実家の母はこしあん、義母はつぶあん、私はいつの間にかつぶあんを作って、仏壇に上げていました。義母さん、ありがとう。

(浦和市/N・K)

●友人にありがとう

七年前に福岡に引越した友人から突然集合の電話を受けた。休日だったので、思い付きで新幹線に飛び乗り、東京に来たのだと言う。

折角だからと言うことで、地元の人達に連絡を取ってみると、その日は皆たまたま都合がよかったようで、突然の呼び出しにも関わらず、二十人以上が集まってくれた。

普段は皆忙しく、例え数人でもなかなか会う機会が作れず、日に日に疎遠となっていたのだが、たった一人の来訪により、いとも容易く集まってしまった。その中には数年ぶりの連中もおり、気が付けばちよつとした同窓会となっていた。

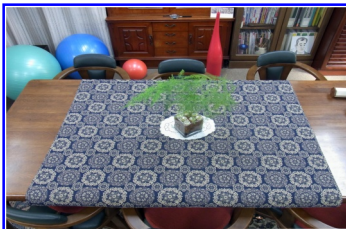
無鉄砲な友人の思い付きのお陰で、懐かしい面々とも会え、一時だが青春時代の楽しい気持ちに戻れた。久々の来訪にありがとう。

(品川区/G・S)



【携帯Deショット】

お客様が下さった包みを開けると、美しく染め抜かれた「風呂敷」。テーブルの上で広げてみるとかなりの大判。荷物を包むにはもったいない。掌に温もりを感じる感触が嬉しくお気に入りのテーブルクロスに変身。ありがとうございました。



- 携帯電話の方はQRコードから →→→
- パソコンの方は下記のURLから ↓
- メールでのご投稿は…

http://1039.seesaa.net/
info@holonics.gr.jp



【編集・企画】株式会社ホロニクス総研・編集部

【原稿をお待ちしています】

本誌は北海道から沖縄までの友人知人から寄せいただいた「ありがとう」のこぼれ話、因んだ思い出、詩、俳句、短歌、写真、絵画などを掲載します。作品は編集部までお送りください。投稿いただく方には、ささやかではありますが、「ありがとうマガネ拭き」をプレゼントさせていただきます。



皆様からのご投稿をお待ちしております。また、ご自分の名前や事業所名を刷り込んで、身近な方やお客様へ配布されては、いかがでしょうか。編集へのご意見やご提案がございましたら是非ともお聞かせください。

